

2-8. 被害と加害者との関連

被害と加害者との関連として、被害の特徴と加害者属性との関連、加害者属性と被害者行動との関連、加害者属性と被害状況との関連等について分析する。

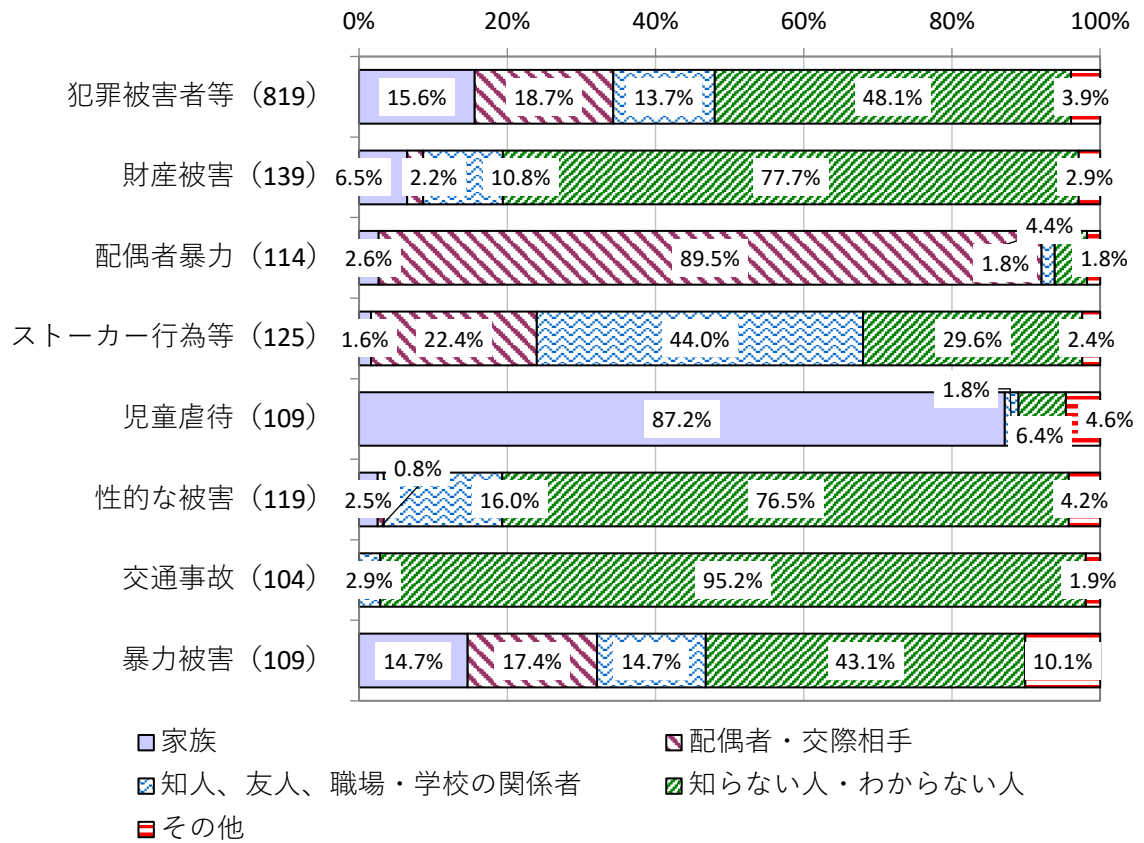
なお、分析に際しては、加害者を、「家族」（父、母、継父、継母、兄弟姉妹、子、祖父母）、「配偶者・交際相手」（配偶者（事実婚・パートナーを含む）、元配偶者（事実婚・パートナーを解消した方を含む）、交際相手、元交際相手）、「知人、友人、職場・学校の関係者」（職場、アルバイト先の関係者、通っていた学校の関係者（上司、同僚、部下、取引先の相手、学校の教員など）、知人、友人、SNS で出会った人）、「知らない人・わからない人」（全く無関係の人、知らない人、わからない）、「その他」（図表 7-2 注の再掲）に分類した。

（1）被害の特徴と加害者属性との関連

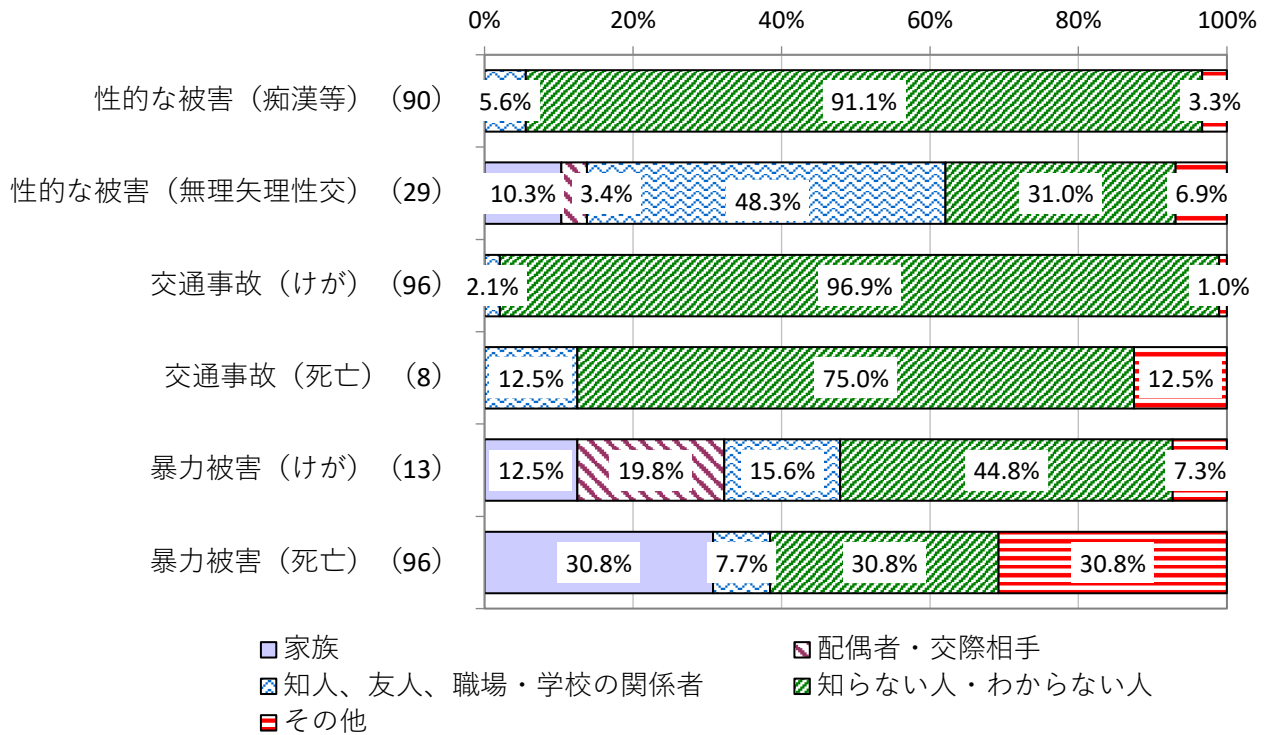
ア. 犯罪被害類型と加害者属性

加害者属性について、犯罪被害類型別にみると、交通事故、財産被害では「知らない人・わからない人」（それぞれ 95.2%、77.7%）、配偶者暴力では「配偶者・交際相手」（89.5%）、児童虐待では「家族」（87.2%）との回答比率が大半を占めている。ストーカーでは「知人、友人、職場・学校の関係者」（44.0%）との回答比率が最も高く、次いで「知らない人・わからない人」（29.6%）、「配偶者・交際相手」（22.4%）となっている。性的な被害では「知らない人・わからない人」（76.5%）との回答比率が最も高く、「知人、友人、職場・学校の関係者」（16.0%）も一定数みられる。暴力被害では「知らない人・わからない人」（43.1%）、「配偶者・交際相手」（17.4%）、「家族」「知人、友人、職場・学校の関係者」（それぞれ 14.7%）等、加害者構成が多様となっている（図表 8-1）。

図表 8-1 犯罪被害類型別、加害者属性【SC1/SC3、Q3】



【参考】性的な被害、交通事故、暴力被害の更なる内訳

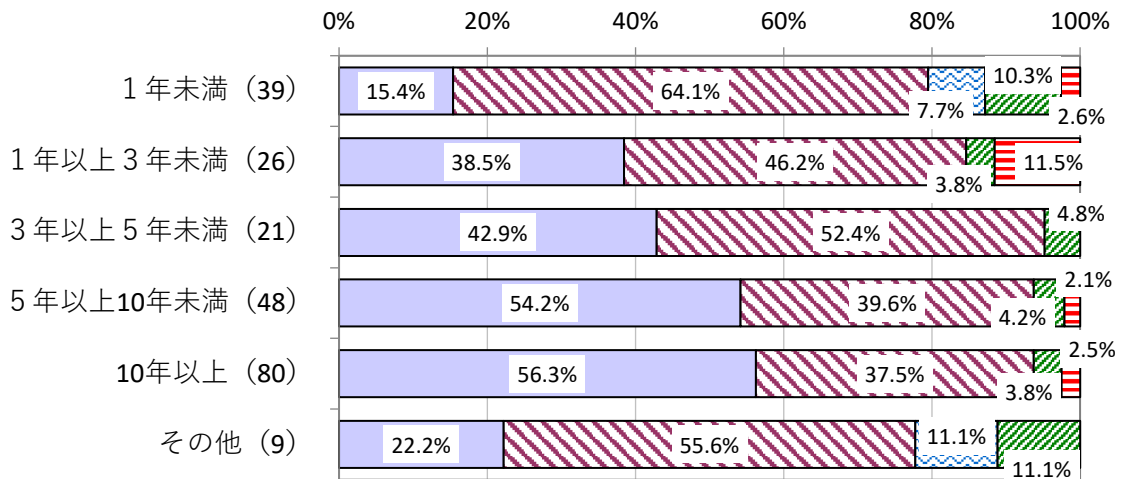


イ. 被害の継続期間と加害者属性

加害者属性について、被害の継続期間別にみると、配偶者暴力、児童虐待では、加害者が「家族」である場合に被害が長期化している（図表8-2＜配偶者暴力、児童虐待＞）。財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害については、図表8-2＜財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害＞のとおり。

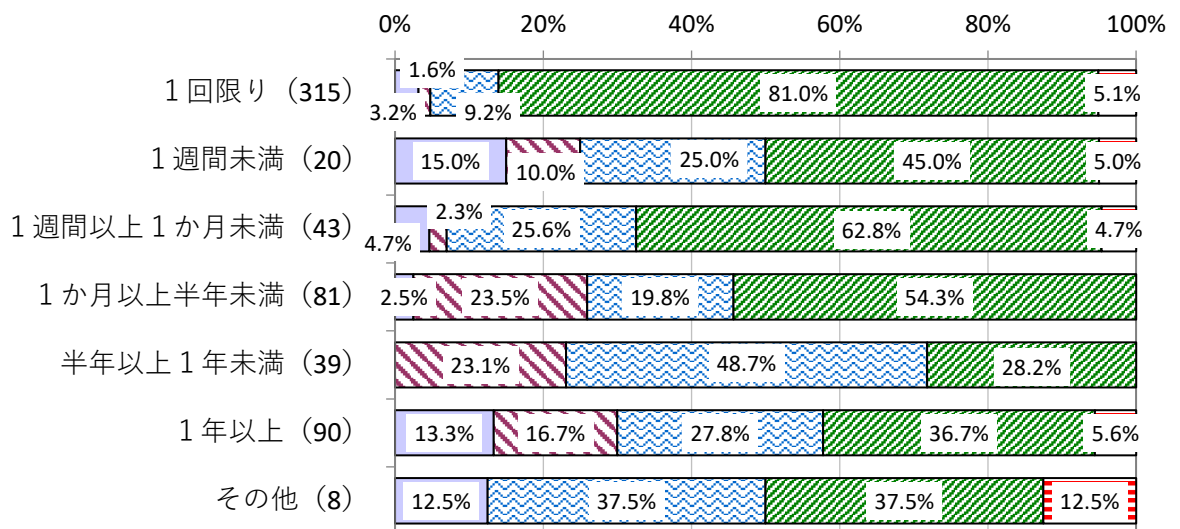
図表 8-2 被害の継続期間別、加害者属性【Q5、Q3】

＜配偶者暴力、児童虐待＞



■ 家族 ■ 配偶者・交際相手 ■ 知人、友人、職場・学校の関係者 ■ 知らない人・わからない人 ■ その他

＜財産被害、ストーカー、性的な被害、交通事故、暴力被害＞



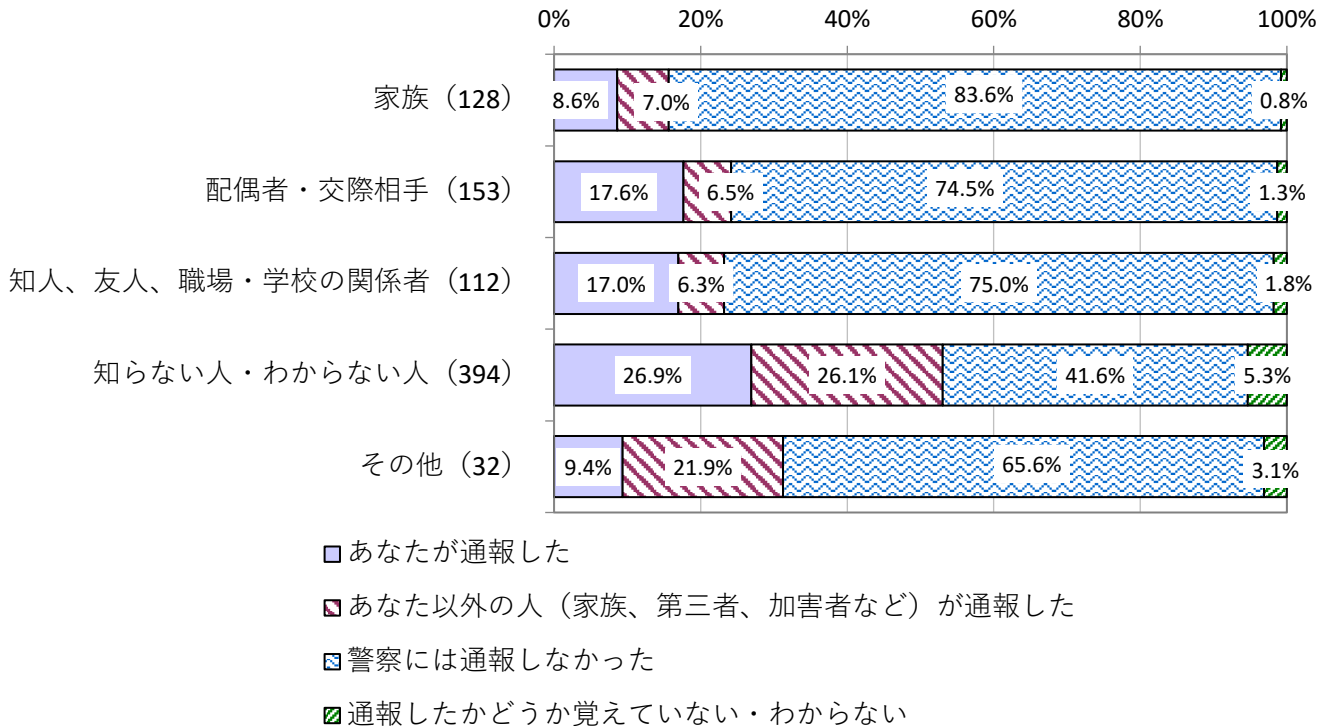
■ 家族 ■ 配偶者・交際相手 ■ 知人、友人、職場・学校の関係者 ■ 知らない人・わからない人 ■ その他

(2)加害者属性と被害者行動との関連

ア. 加害者属性と警察への通報状況

警察への通報状況について、加害者属性別にみると、警察へ通報した（「あなたが通報した」と「あなた以外の方が通報した」の和）との回答比率（＝警察への通報率）は、加害者が「家族」（15.6％）の場合に最も低く、次いで「知人、友人、職場・学校の関係者」（23.3％）、「配偶者・交際相手」（24.1％）、「知らない人・わからない人」（53.0％）となっている（図表8-3）。

図表 8-3 加害者属性別、警察への通報の有無【Q3、SC4】



イ. 加害者属性と相談状況

相談状況について、加害者属性別にみると、「家族」の場合に「相談経験なし」（72.7％）との回答比率が最も高くなっている（図表8-4）。

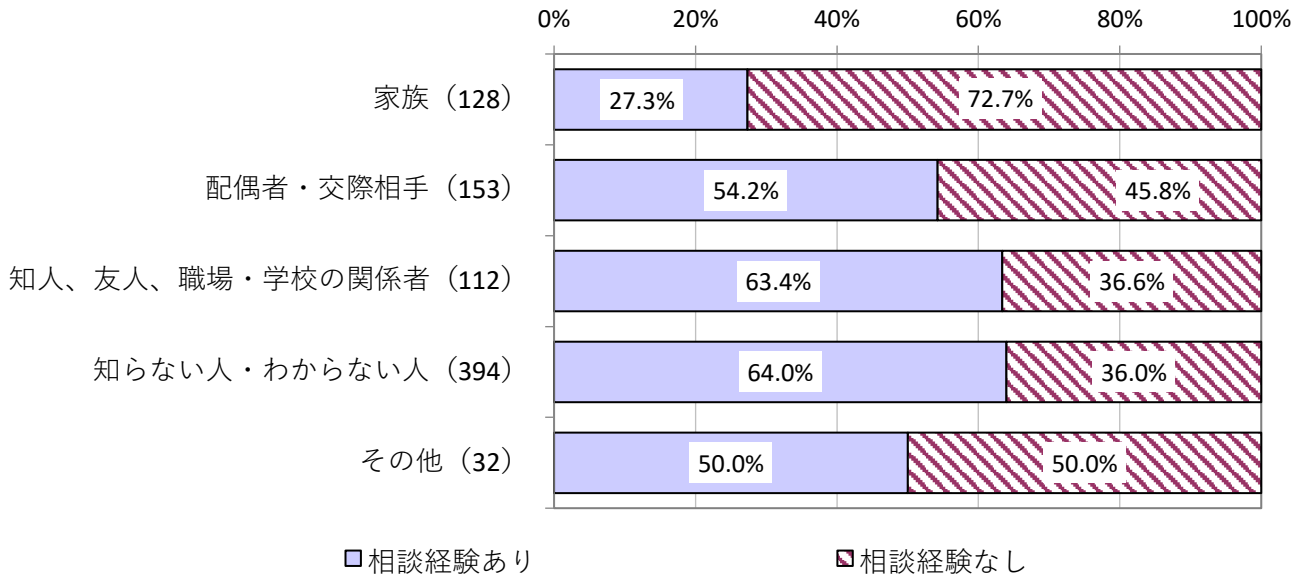
相談した相手については、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」、「配偶者・交際相手」、「家族」の場合には「母」（それぞれ22.3％、20.3％、10.9％）、「知らない人・わからない人」の場合には「警察」（20.6％）が最も高くなっている（図表8-5）。

警察に通報・相談しなかった理由については、加害者が「家族」の場合には「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（76.6％）、「配偶者・交際相手」の場合には「どうせとりあってもらえないと思ったから」（37.4％）、「知人、友人、職場・学校の関係者」「知らない人・わからない人」の場合には「警察に相談するほどの被害ではないと思ったから」（それぞれ34.9％、34.3％）との回答比率が最も高くなっている（図表8-6）。

どこにも（誰にも）相談しなかった理由としては、加害者が「家族」の場合には「低年齢であったため、相談することを思い至らなかった」（64.5％）、「配偶者・交際相手」の場合には「どこに相談すればよいかかわからなかった」「相談するほどのことではないと思った」（それぞれ32.9％）、「知人、友人、職場・学

校の関係者」の場合には「他人に知られたくなかった」「おおごとにしたくなかった」(同 26.8%)、「知らない人・わからない人」の場合には「相談するほどのことではないと思った」(23.9%) との回答比率が最も高くなっている(図表 8-7)。

図表 8-4 加害者属性別、相談経験の有無【Q3、SC5】



図表 8-5 加害者属性別、初めて被害にあった際の相談相手・機関(複数回答)【Q3、SC5】

	全体	父	母	配偶者	兄弟姉妹	それ以外の家族・親族	勤務先の同僚・友人など	勤務先の上司など	学校などの友人	学校の先生・学生相談室・スクールカウンセラーなど	学校・勤務先以外の友人など
家族	128	9 (7.0%)	14 (10.9%)	2 (1.6%)	4 (3.1%)	4 (3.1%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	5 (3.9%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)
配偶者・交際相手	153	22 (14.4%)	31 (20.3%)	10 (6.5%)	18 (11.8%)	7 (4.6%)	13 (8.5%)	5 (3.3%)	9 (5.9%)	1 (0.7%)	7 (4.6%)
知人、友人、職場・学校の関係者	112	15 (13.4%)	25 (22.3%)	14 (12.5%)	6 (5.4%)	3 (2.7%)	11 (9.8%)	11 (9.8%)	14 (12.5%)	2 (1.8%)	4 (3.6%)
知らない人・わからない人	394	49 (12.4%)	72 (18.3%)	60 (15.2%)	18 (4.6%)	8 (2.0%)	30 (7.6%)	23 (5.8%)	21 (5.3%)	3 (0.8%)	9 (2.3%)
その他	32	5 (15.6%)	4 (12.5%)	4 (12.5%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)	1 (3.1%)	3 (9.4%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)

	交際相手	弁護士・日本司法支援センター(法テラス)	地方公共団体の総合的対応窓口	児童相談所	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター	その他の行政機関・福祉機関の相談窓口	警察	民間の犯罪被害者支援団体	医療機関	その他	どこにも(誰にも)相談していない
家族	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	5 (3.9%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	2 (1.6%)	93 (72.7%)
配偶者・交際相手	1 (0.7%)	5 (3.3%)	2 (1.3%)	1 (0.7%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)	13 (8.5%)	3 (2.0%)	5 (3.3%)	4 (2.6%)	70 (45.8%)
知人、友人、職場・学校の関係者	3 (2.7%)	5 (4.5%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (11.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	41 (36.6%)
知らない人・わからない人	16 (4.1%)	14 (3.6%)	2 (0.5%)	1 (0.3%)	1 (0.3%)	3 (0.8%)	81 (20.6%)	3 (0.8%)	12 (3.0%)	7 (1.8%)	142 (36.0%)
その他	1 (3.1%)	1 (3.1%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	4 (12.5%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (50.0%)

図表 8-6 加害者属性別、警察に相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q8】

	全体	警察に相談 できることだ と思わな かったから	どうせとり あってもえ ないと思っ たから	手続などが 大変だと思 ったから・ 急いでおり 時間がな かったから	周囲の目が 気になるか ら	被害の話を するのにつ らかったから	相手が処罰 されましょ うかもしれ ないから	警察に相談 するほどの 被害ではな いと思っ たから	警察に相談 してから物 事がどのよ うに進むの か予想がで きないから	低年齢で あったため 、相談する ことを思 い至ら なかった	その他
家族	107	44 (41.1%)	25 (23.4%)	3 (2.8%)	11 (10.3%)	10 (9.3%)	7 (6.5%)	13 (12.1%)	8 (7.5%)	82 (76.6%)	6 (5.6%)
配偶者・交際相手	115	37 (32.2%)	43 (37.4%)	16 (13.9%)	20 (17.4%)	15 (13.0%)	10 (8.7%)	41 (35.7%)	25 (21.7%)	7 (6.1%)	9 (7.8%)
知人、友人、職場・学校の関係者	86	28 (32.6%)	27 (31.4%)	12 (14.0%)	21 (24.4%)	11 (12.8%)	7 (8.1%)	30 (34.9%)	14 (16.3%)	12 (14.0%)	7 (8.1%)
知らない人・わからない人	181	28 (15.5%)	44 (24.3%)	23 (12.7%)	16 (8.8%)	15 (8.3%)	0 (0.0%)	62 (34.3%)	18 (9.9%)	42 (23.2%)	22 (12.2%)
その他	22	9 (40.9%)	8 (36.4%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	4 (18.2%)	4 (18.2%)	10 (45.5%)	6 (27.3%)

※対象：SC 4（警察に通報したか）で「警察には通報しなかった」「通報したかどうか覚えていない・わからない」と回答し、かつ SC 5（相談した相手・機関）で「警察」と回答しなかった方（511人）のみ。

図表 8-7 加害者属性別、どこにも（誰にも）相談しなかった理由（複数回答）【Q3、Q11】

	全体	どこに相談す ればよいか わからなかつ た	自分が被害 にあっている ことに気がつ かなかった	相談するほ どのことでは ないと思っ た	自分で解決 できると思っ た	被害につい て誰かに話 すことが恥 ずかしくな った	他人に知ら れたくなかつ た	おおごとにし たくなかつ た
家族	93	24 (25.8%)	23 (24.7%)	10 (10.8%)	3 (3.2%)	7 (7.5%)	11 (11.8%)	12 (12.9%)
配偶者・交際相手	70	23 (32.9%)	5 (7.1%)	23 (32.9%)	16 (22.9%)	14 (20.0%)	12 (17.1%)	15 (21.4%)
知人、友人、職場・学校の関係者	41	9 (22.0%)	4 (9.8%)	9 (22.0%)	10 (24.4%)	5 (12.2%)	11 (26.8%)	11 (26.8%)
知らない人・わからない人	142	24 (16.9%)	10 (7.0%)	34 (23.9%)	13 (9.2%)	18 (12.7%)	13 (9.2%)	13 (9.2%)
その他	16	4 (25.0%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	3 (18.8%)	3 (18.8%)

	言っても何も してくれない 役に立たな いと思っ た	加害者から の仕返しが 怖かった	加害者から 相談するな ど脅されて いた	自分が悪い と思っ た、自 分に責任 がある と思っ た	低年齢であ ったため、 相談 するこ とを思 い至ら なかつ た	特に理由 はない	その他
家族	17 (18.3%)	14 (15.1%)	0 (0.0%)	15 (16.1%)	60 (64.5%)	6 (6.5%)	2 (2.2%)
配偶者・交際相手	15 (21.4%)	10 (14.3%)	3 (4.3%)	7 (10.0%)	2 (2.9%)	5 (7.1%)	1 (1.4%)
知人、友人、職場・学校の関係者	5 (12.2%)	7 (17.1%)	1 (2.4%)	2 (4.9%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)
知らない人・わからない人	21 (14.8%)	5 (3.5%)	3 (2.1%)	8 (5.6%)	23 (16.2%)	32 (22.5%)	6 (4.2%)
その他	5 (31.3%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	7 (43.8%)	2 (12.5%)	2 (12.5%)

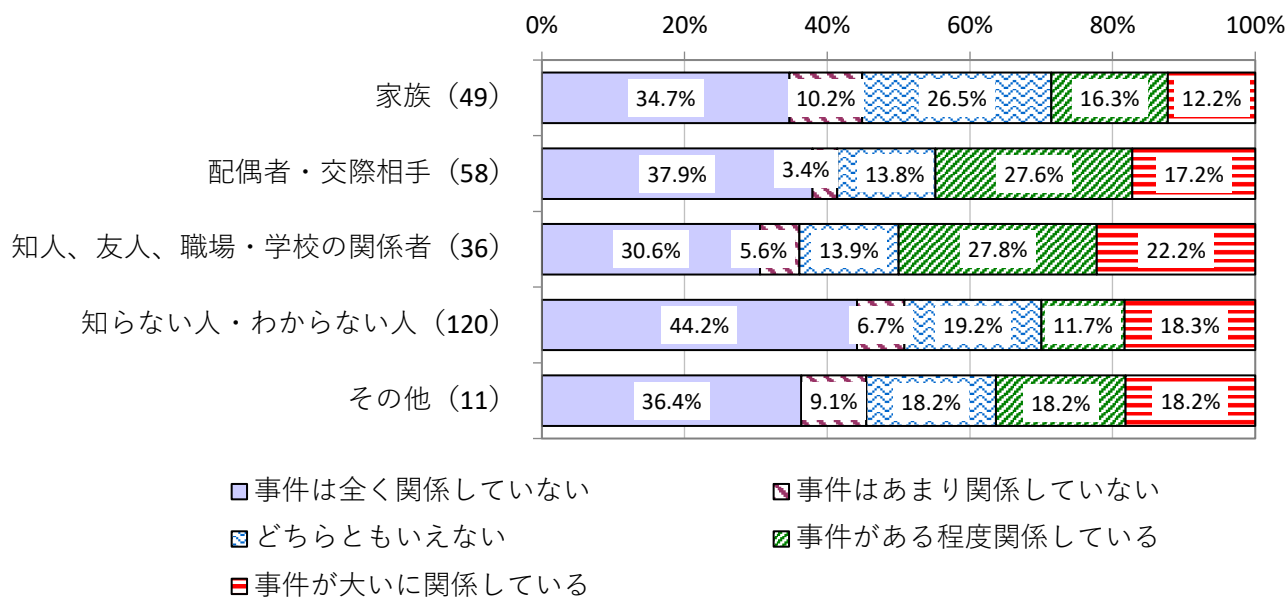
※対象：SC 5（相談した相手・機関）で「どこにも（誰にも）相談していない」と回答した方（362人）のみ。

(3)加害者属性と被害状況との関連

ア. 加害者属性と身体上の問題と事件との関連

身体上の問題と事件との関連について、加害者属性別にみると、「身体上の問題と事件が関連していると思う」（「事件がある程度関係している」と「事件が大いに関係している」の和）との回答比率は、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」（50.0％）の場合に最も高く、次いで「配偶者・交際相手」（44.8％）となっている（図表8-8）。

図表 8-8 加害者属性別、身体上の問題と事件との関連【Q3、Q29】



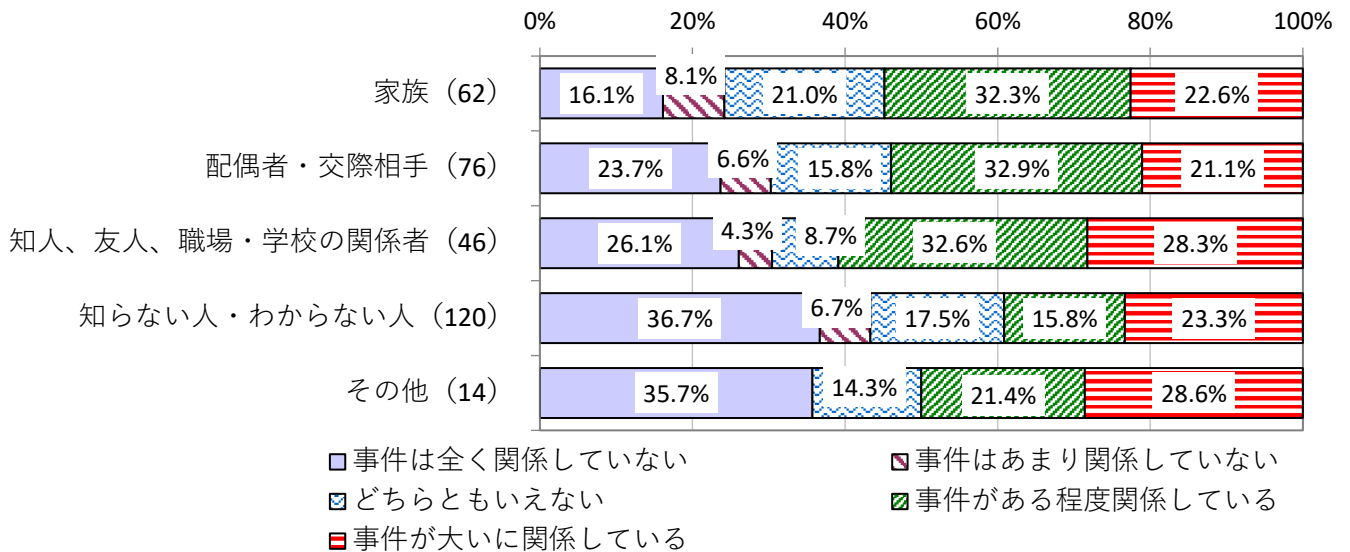
※対象：Q28（身体上の問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（274人）のみ。

イ. 加害者属性と精神的な問題と事件との関連

精神的な問題と事件との関連について、加害者属性別にみると、「精神的な問題と事件が関連していると思う」（「事件がある程度関係している」と「事件が大いに関係している」の和）との回答比率は、加害者が「知人、友人、職場・学校の関係者」（60.9%）の場合に最も高くなっている（図表8-9）。

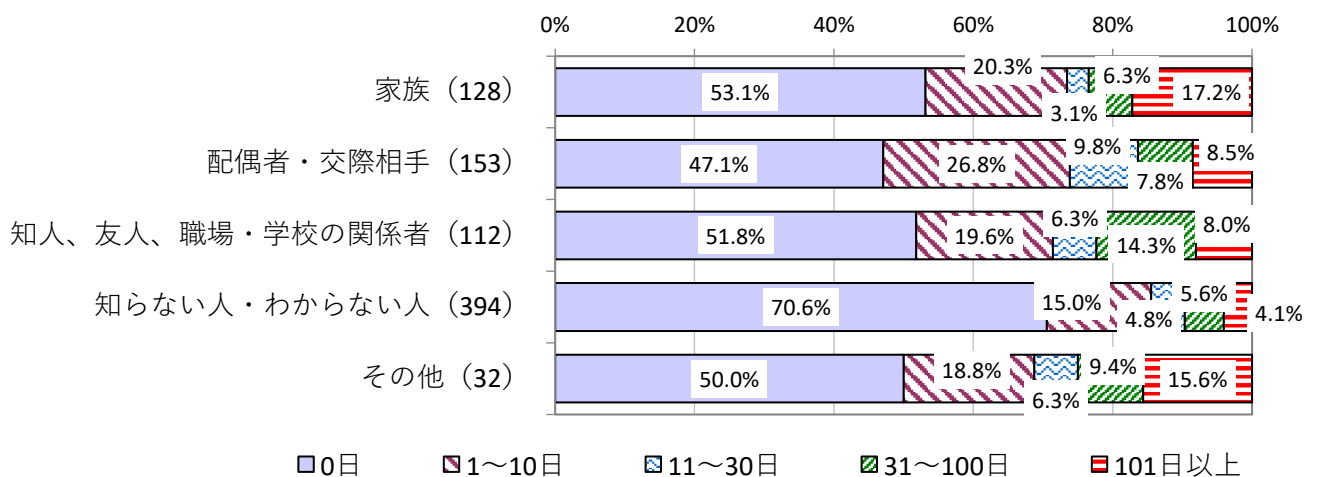
また、仕事や日常生活が行えなかった日数については、加害者が「家族」、「配偶者・交際相手」、「知人、友人、職場・学校の関係者」の場合に長くなっている（図表8-10）。

図表 8-9 加害者属性別、精神的な問題と事件との関連【Q3、Q32】



※対象：Q31（精神的な問題を感じたか）で「感じた」と回答した方（318人）のみ。

図表 8-10 加害者属性別、日常生活が行えなかった日数【Q3、Q35】



ウ. 加害者属性と被害からの回復状況

被害からの回復度について、加害者属性別にみると、半分以上回復した（「5～6割程度回復した」と「7～8割程度回復した」と「9～10割程度回復した」の和）との回答比率は、加害者が「知らない人・わからない人」（93.7%）の場合に最も高く、次いで「配偶者・交際相手」（83.1%）、「知人、友人、職場・学校の関係者等」（79.5%）となっており、「家族」（62.6%）の場合が最も低い（図表8-11）。

図表 8-11 加害者属性別、被害からの回復度【Q3、Q53】

